

本期的主题是“人与动物的关系”。在《今日日本》中，介绍了动物园和动物园的展示活动、动物的生命以及宠物等内容；在《人物采访》中，记述了一个小学女生跟野猴心灵相同、朝夕相处的故事。本期将从这些话题出发，稍微换个视角，将关键词设定为“动物”与“人”，介绍几个课堂活动的例子。

●十二生肖

可以说，我们人类从出生开始，便与动物有着千丝万缕的联系。在中国或在日本，都有十二生肖这一说法就可以说明以上观点。

首先，让同学们调查一下，十二生肖里面出现的动物用日语怎么说。此外，设定一些问题，如：你认为除了中国之外还有其他国家有十二生肖吗？如果有的话，这12种动物一样吗？让同学们谈谈自己的看法。如果有条件上网，让大家自己动手去查答案。这样的活动肯定会增加趣味性。

实际上，不仅日本、韩国、蒙古、越南、泰国等亚洲国家有十二生肖，在东欧也有类似的风俗，只是其中的动物稍有不同。例如，越南、泰国的十二生肖里没有“兔”，而有“猫”，在泰国，有的地方十二生肖里有“象”没有“牛”。像这样，以“十二生肖”为主题，可以创造一个学习文化的良机。

有关干支的日语读法，有几个地方需要提醒学生注意（请看下表）。

书写	读音	汉语	书写	读音	汉语
子年	ねずみどし	鼠年	午年	うまどし	马年
丑年	うしどし	牛年	未年	ひつじどし ^{*3}	羊年
寅年	とらどし	虎年	申年	さるどし	猴年
卯年	うさぎどし	兔年	酉年	とりどし	鸡年
辰年	たつどし ^{*1}	龙年	戌年	いぬどし	狗年
巳年	みどし/へびどし ^{*2}	蛇年	亥年	いのししどし ^{*4}	猪年

*1 龙年称为“たつどし”而非“りゅうどし”。 *2 蛇年也称“へびどし”，但“みどし”更常用。 *3 羊年称为“ひつじどし”而非“やぎどし”。 *4 猪年称为“いのししどし”而非“ぶたどし”。

●动物占卜

大约是10年之前，日本掀起了一阵“动物占卜”热。占卜方法就是根据各人的出生年月日，归类为12种动物的其中一种，来判断人的性格。虽然也是12种动物，但跟十二生肖不同，分别是：猴、猎豹、黑豹、狮子、虎、狸、考拉、象、羊、天马、狼、小鹿。这里面有天马这样虚构出来的动物，也有猎豹、考拉等。这不仅能增加学生的有关动物的词汇量，也是阅读性格测试的日语文章的一个机会，同时最重要的是，同学之间互相测试性格，是非常有趣的。

在下面的网站上，可以进行动物占卜。

动物占卜正规网站——动物村[®]

<http://www.doubutsu-uranai.com/index.php>

在网页的中间部分，有输入出生年月日的地方，输入后，点击“12キャラクターチェキ”（12性格测试），便能显示出测试结果来。12种动物的性格可以参照本期的附录。如果没有上网的环境，可以在课堂上让同学们利用附录相互占卜性格，这样的活动一定很受欢迎。



©2008/kubokiriko/noracom

●把自己比作动物

“如果把自己比作动物，那你是哪种动物呢？”

大家有没有被问过这样的问题呢？在日本，这是一个常见问题，求

职面试、入学考试的面试等常会被问到这个问题。这除了可以用作面试应试的指导外，还可以练习日语。在班里提出这个问题，让大家进行思考，思考完毕后，再试着用日语发言。

(例) わたしはネコに似ていると思います。理由は、自分が遊びたいときは友だちを誘いますが、一人になりたいときはどんなに友だちが誘っても遊ばないからです。

把自己比作动物，这个方法有助于客观评价自己的性格和行为。

如上所述，在日本，将自己或者他人比做动物，是比较常见的话题之一。在这方面，我曾有过以下这段反面经历。

我带的班里，有一个叫H的男孩子。他的长相令人联想起颜色鲜艳的热带鸟。于是在一次上课时，作为新句型的例句，我在黑板上写了“H君は鳥に似ています”。看了这个句子，包括H本人在内，全班人哄堂大笑。看到刚学的句子就能大笑，这说明大家理解了这句话的意思，从日语学习角度来讲这是非常好的，但是，有一个学生生气了，非常严肃地跟我说：“H是人，老师你太没有礼貌了！”

通过这件事，我认识到将人比作动物的作法是否合适是因人或文化而异的。像这样从失败的例子中学会从新的角度看问题，这样的新发现在教学中非常重要。

●思考动物给人类带来的好处

2007年1月，澳大利亚的阿德莱德动物园举办了为期一个月左右的人类展示。据称，活动的目的是为了人们提高人们对灵长类动物的保护意识，参观者可以从栅栏外观看被挑选出的参展志愿者。虽然我并不是说应该效仿这个“人类动物园”的做法，但是拉开距离重新审视人类这一存在却是必要的。

让学生事先阅读《今日日本》中的《养狗的理由》、《从野猫到社区猫》以及《人物采访》。

首先，将班级里的学生分成几个小组，将各小组分别假设为狗、猫、猴等不同的动物。最好能包括日本或中国非常受欢迎的宠物。然后，让各小组思考狗给人类带来的好的、积极的一面和狗受到人类的伤害、消极的一面，并在纸上写下来。而猫小组则从猫的角度、猴小组则从猴子的角度出发，各个小组分头行动。如果有的小组不知道从何着手，或者想不出什么东西，可以让他们参考《今日日本》的栏目以及《人物采访》中所写的内容，启发他们站在动物的角度来想象与人类以及人类社会的接触。

各小组的活动结束后，就动物给人类带来恩惠的积极一面以及动物受到人类伤害的消极一面，让各小组分别进行发言。从这个活动中，既可以让同学们思考人类从动物那里得到的好处，同时，也能让大家意识到人类的自私之处。

在“杂学博士”部分，介绍了有关动物的谚语和惯用表达方式。在这里收集了一些日常生活中经常看到的、听到的谚语，介绍给同学们。比较一下，要表达与日语相同的意思，在汉语中用什么动物，或者在汉语中不用动物来表达，这样的比较一定会成为一个乐趣横生的活动。

本期介绍到此结束。对了，再次提醒大家，“猪年”出生的人如果被用人日语问到“干支は何ですか”时，千万不要回答说“ブタです”。

有馬淳一

國際交流基金日本語試験センター設立準備室研究員

サルから学んだ大切なこと

さき

8歳、小学校2年生
兵庫県在住



山の斜面を利用して40年前に作られた淡路島モンキーセンターでは、180頭の野生のサルを餌付けています。山で暮らすサルは、朝9時ごろセンターに姿を現し、夕方5時ごろ山に帰って行きます。秋には山に多くの木の実がなるので、サルはセンターには来ません。所長を務める延原さんのこども、さきちゃんは小学校に入るまで、両親が働くこのセンターで一日の大半を過ごしていました。今でも、放課後や夏休みはセンターで過ごします。サルとはすっかり仲良しで、ケンカをするほど心を通わせています。そんなさきちゃんとサルとの触れ合いがテレビでしばしば取り上げられ、心温まるやりとりが多くの人に感動を与えています。今号は、さきちゃんとご両親に話を聞きました。

Q：いつからサルと遊ぶようになったの？ 何をして遊ぶの？

さき：たぶん1歳ごろから。気がついたらサルと一緒にいた。水かけっこしたり、木の実を探す競争をしたりして遊ぶの。お母さんが隠した木の実を探すんだけど、大体さきが勝つ。だって、お母さんがどこに隠してるのかこっそり見てるから…（笑）。そうやって遊ぶのも楽しいけど、赤ちゃんに餌をやるときがいちばん楽しい。

Q：このサルにはほとんどに名前がついているけれど、区別はできるの？ 誰が名前をつけるの？

さき：うん。ほとんどわかるよ。顔が違うから。赤ちゃんが生まれたら、さきかお母さんかお父さんが名前をつける。さきがつけた名前は、「りぼん」とか「ケーキ」とか。トロロはお母さんがつけた。自分が名前をつけたサルも、そうじゃないサルも、みんな



トロロとさきちゃん。トロロと時々ケンカもするが、とても仲がいい。さきちゃんに顔を触られてもトロロは怒らない

同じでかわいい。

母：さきは、サルの識別がいちばんよくできます。教えたわけじゃないんですけど、自然にできるようになりました。

Q：今まででいちばんうれしかったことは何？

さき：5歳のときに、生まれたばかりの赤ちゃんを抱っこしたこと。お母さんザルが赤ちゃんのすぐ斜め後ろにいたんだけど、赤ちゃんがすごくかわいくて、思わず抱っこしたの。

父：そんなことをされたら、母ザルは普通怒るんですよ。母ザルだけじゃなくて、ほかのサルも怒ります。さきは小さいころからサルと一緒にいるし、今もまだ小さいから、「まあ、いいかなあ」と許したんでしょう。さきがやることを大目に見ているなあと思うことはほかにもありますね。

母：赤ちゃんザルを初めて抱っこしたときは、本当にうれしそうでしたね。それから、テレビ番組の撮影をしていたときに、トロロが初めて体を触らせてくれたのもうれしかったようです。そのときの映像を見たら、さきの顔は本当に満足そうです。普通、野生のサルは触らせてくれませんから。

Q：じゃあ、今まででいちばん悲しかったことは？

さき：6歳のとき、おばあちゃんと散歩していたら、メスで

50cmぐらいのサルが死んでるのを見た。高いところから落ちたか、犬に襲われたんだと思う。お母さんにそのサルを埋めてもらった。すごく悲しかった。それから、7歳のとき、サルの餌になる木の実をお父さんと一緒に探していたときに、サルの頭蓋骨を見つけた。頭蓋骨だけがそこにあった。すごくショックだった。お墓を作ってあげた。

父：そのとき、さきはそんな様子は見せなかったですね。弱いところを見せるのがいやなのかもしれませんが、強がる場所があ



生後1週間の赤ちゃんザルを初めて抱っこしたさきちゃん

るんです。でも、あとでお墓を作ったりしたのを見ると、やっぱりショックだったんだと思いますよ。私たちがサルの死に遭遇することはあまりないんです。餌場でサルが死ぬことはないから。これまで餌場に来ていたサルがなくなったときに、今はまだ「いないなあ」と思っているのですが、そのうち、「いなくなる＝死」ということがわかってくるでしょう。そのとき、どうやって受け入れるのか、乗り越えていくのか。必要なことだと思いますが、少し心配ですね。

この山には奇形のサルが多く、180頭のうち30頭は何らかの障害を持っています。センターが開所して間もないころ、足が1本もない赤ちゃんザルを抱えた母ザルが常に抱っこしていることに疲れ、木から落としそうになったのを初代所長であるさきちゃんのおじいちゃんが見つめて、コートと名づけて自分の手元で育てました。そのコートのことを忘れないように、コートの像がセンター内に建てられています。

Q：コートのこと知ってる？ 足のないサルもいっぱいいるけど、どう思う？

さき：コートを育てて、おじいちゃんは偉いなあって思う。でも、そのことを知ったとき、お母さんじゃない人に育てられて、ほかのサルと仲良くできるのかなあ、大丈夫かなあって心配した。

父：さきは障害をもったサルを特別視していません。ここのサルは、障害をもったサルに自然とあわせて、行動範囲やスタイルを変えています。移動するスピードを落としたり…。序列はもちろんあるけれど、弱いものを助ける。切り捨てたり、放置したりしないんです。障害をもったサルも含めて一つの群れ、一つの社会をつくっているんですよ。

Q：サルと毎日接していて何か考えさせられることはある？

さき：ない！ だって、これが普通だから。

Q：お父さんやお母さんは、さきちゃんにサルとの触れ合いを通



「ボース！ ボース！」と呼ぶとサルが集まる。餌やりと水の交換がさきちゃんの仕事だ

じて何を学んでほしいですか？

父：これを学んでほしいというのはあまりないんです。さきはほかの子どもができないような経験を毎日しているんですが、いいのかわかりません。でも、悪いことではないかなあと思っています。助け合って生きるということを肌身をもって知っているから。さきは言葉では言わないんですが、さきの行動を見ていたら、いろいろ考えているんだなあと思うことはよくありますね。お墓を作ったのもそうですし、サルの出産に立ち会うことがよくあるんですが、そのときのさきはすごく真剣で、周りが騒がしくしていると、「静かにしてください」って言ったりしますね。

母：私もこれを学んでほしいというのはあまりないんです。自然に学ぶだろうと思ってます。こちらが教えようとすると、逆に拒絶してしまいますからね。



野猴经常在新闻里登场，它们到人们家里胡闹、在旅游景点抢包、给人类带来危害，在很多人的印象中，野猴成了野蛮、凶暴的代名词。但是，淡路岛野猴保护中心的猴子却很守本分，在保护中心里给猴子们喂食的时候，人就进入笼里，在笼里喂食当场买来的带壳花生。猴子们知道只能从站在笼里的人那里获取食物，因此不会向笼外的人索要吃的。但是，有人觉得猴子很可爱，从包中取出食物随意喂食，如此一来，头脑聪明的猴子便明白，不管在哪里，无论从谁手里都能获得好吃的东西，于是逐渐开始袭击人们。和利先生说：“希望媒体报道保护中心，让大家明白这种与猴子相处的方法，从而改变人们对野猴的看法。其次，还希望能够以此为契机，让人们了解野猴所处的状况，并让人们开始思考人与自然的的关系。”此外，“这个保护中心开设当时，因为猴子严重破坏庄稼，为了缓解这种状况，考虑了在一个地方集中进行喂养的方法。当然，最理想的是不对野猴进行人工喂养。但是，它们现在无法立刻回到野生状态中，因为能让猴子们安心栖身的山林没有了……。希望终有一天，人类要进入山里，才能看到野生的猴子。”和利说出了自己的梦想。



喂食的时候，人进入笼里。在笼子外面，挂着“哺乳类：人类”的牌子。



ひだまり

第34号

2008年3月

目次

今日日本

来自动物的馈赠



人物采访

サルから学んだ大切なこと



発行 (財) 国際文化フォーラム
編集人 中野佳代子
編集・制作 飯野典子
大船ちさと
千葉美由紀
長江春子
翻訳・校閲 シンプルデザイン

〒163-0726
日本国東京都新宿区西新宿 2-7-1
新宿第一生命ビル 26 階
財団法人国際文化フォーラム
電話：81-3-5322-5211
ファックス：81-3-5322-5215
Eメール：hidamari@tjf.or.jp
URL：http://www.tjf.or.jp/

漢語橋：日本の高校生サマーキャンプ 文集『朋友』完成!

2007年8月21日から30日まで、中国語を学ぶ日本の高校生91人が「漢語橋：日本の高校生サマーキャンプ（夏令营）」に参加しました。その参加者が現地

で学んだことや感じたことをまとめた文集『朋友—漢語橋にほん高校生夏令营の記録—』が完成しました。



日本では現在、約600校の高校で中国語の授業が行われ、約2万人の高校生が中国語を学んでいます。国際文化フォーラム(TJF)では、これらの中国語を学ぶ高校生が中国を訪問し、中国の同世代と交流することが、言語や文化を理解するだけでなく、中国語を母語とする人々を理解し、自分の考えていることを相手に伝えるために必要な姿勢を身につける上で大きな効果をあげると考え、その実現のためにさまざまな機関に働きかけてきました。その結果、中国国家漢語国際推進指導グループ弁公室が、日本の高校生約100人を中国に招聘することを決定し、「漢語橋：日本の高校生サマーキャンプ」が実現したのです。

参加者は北京と大連を訪問しました。北京では中国語の研修を受けた後、研修で学んだ中国語を実際に街で使ってみたり、文化体験として中国結びや太極拳に挑戦したりしました。大連では日本語を学ぶ中学生や高校生と交流しました。

参加した高校生たちは、文集に「もっと中国のことを知りたい」「日中には違うところもあるけれど、同じところもたくさんある」「日本語のぺらぺらな高校生がいてびっくりした。わたしも中国語をもっと勉強したい」といった感想をつづっています。

この文集を先着5名の方にプレゼントします。ご

希望の方は、氏名、学校名、住所をご記入の上、メールまたはファックスで、国際文化フォーラムひだまり編集部宛てにご連絡ください。

「つながる」でつながろう!

世界中の中高生がインターネット上で交流できる場として「つながる」を開設しました。中高生だけが参加できるSNS(Social Networking Service)を使ったウェブサイトで、「つながる」の中に自分のページを持つことができ、自分の写真や日記(エッセイ)を公開することができます。また、いろいろな国の中高生のページや日記をよ読んで、そこに感想を書くこともできます。多言語に対応しているので、日本語だけでなく中国語、韓国語での書き込みも可能です。生徒たちがお互いのページを行き来して、意見や感想を交換し合う場として、そして、学んだ言葉を実際に使う場として、ぜひ、ご活用ください。



<http://www.tsunagaaru.com/>

20周年を迎えました!

TJFは2007年度で20周年を迎えました。皆さまのご協力のおかげで、設立以来、世界の中高生が相互理解を深めることをめざして、さまざまな事業を実施してきてことができました。心より感謝の意を表しますとともに、これからも一層努力してまいりますので、引き続きご支援賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

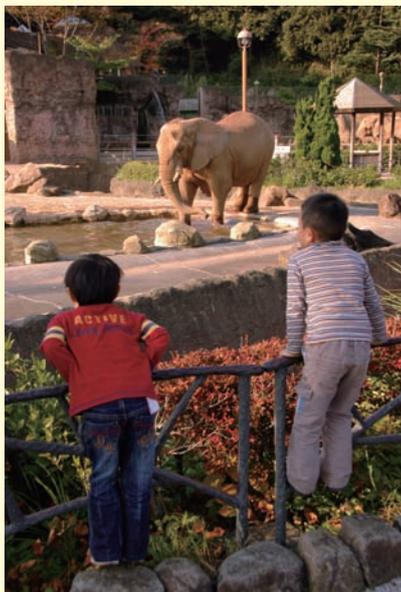
来自动物的馈赠

在我们身边生活着很多动物，有狗、猫等宠物，也有牛、马等家畜。此外，本来生活在辽阔大自然中的野生动物，由于能够在动物园里观赏它们，从这层意义上也可以说生活在我们身边。动物与我们的关系形式多样，彼此息息相关。本期中，将介绍日本的这种人与动物的关系以及动物园和宠物的现状。

动物园中的生命

日本的动物园

日本是世界上动物园最多的国家之一。现在，日本有将近 100 家动物园，其中游客最多的是上野动物园（东京），每年平均有 350 万人到此游览。人们对动物园的评价一直是毁誉参半，有人批评说：动物园里的野生动物与大自然隔离，被关在狭窄的空间里，很可怜。事实上，确实有不少动物在笼中焦躁不安，行为异常。而另一方面，自然环境不断遭受破坏，可供野生动物的栖息地一减再减。面对这种现实，动物园的存在意义是否应该重新考虑呢？



第二次世界大战后，日本的动物园数量猛增。作为和平的象征，同时也为了帮助孩子们创造梦想及提供游乐设施，各地政府纷纷建造动物园。在很长一段时间里，每次珍稀动物来到日本便会掀起一阵观览高潮，但是进入 1990 年代，动物园的客流量减少，一些动物园因无人问津而被迫关闭。究其原因，除了少子化、娱乐多样化等因素之外，也有人认为，仅

仅将动物放在笼中展示的动物园已经失去了魅力。

但这几年，动物园的人气出现回升。其率先引为话题的是引进了最能表现动物魅力的新展示方法的北海道旭山动物园。随后其他动物园，也纷纷推出了各种富有吸引力的展示活动。如今，动物园已从专为儿童游览的设施转变成老少咸宜的娱乐场所。



日本动物园的变迁

- 1882 年 日本第一家动物园——上野动物园（东京）开放
- 1900 年代初期 大阪、京都等大城市的动物园开放
- 1900 年代中期 二战中，动物园关闭，动物被处死
- 1948 年 上野动物园内增设了儿童动物园
- 1949 年 临时运行的“观象专列”给东山动物园（爱知县名古屋市）送去了 3 万名儿童游客
- 1950 年左右 上野动物园开设了移动动物园，在日本各地巡回展览，由此掀起了各地的动物园热
- 1950 年代 全国各地的动物园纷纷开放
- 1972 年 熊猫首次来日，在日本国内掀起史无前例的熊猫热
- 1980 年代 人们广泛认识到动物园在娱乐、教育、环保、研究方面发挥的重大作用
- 1984 年 考拉首次来日，掀起考拉热
- 1990 年代初期 娱乐多样化、少子化等原因，造成动物园游客减少
- 2000 年代初期 旭山动物园的“行动展示”，受到人们欢迎

寄托于动物的和平愿望

二战期间，在动物园里动物们遭受的无数悲剧至今记忆犹新。随着战火的激剧扩大，军部为了防止动物逃到园外危害市民，下令处死园内动物。一时间狮子、老虎、豹子等纷纷死于非命。战后，在日本幸存的大象只剩下东山动物园的 2 头。为了满足孩子们观赏大象的热望，特设了从日本各地开往东山动物园的“观象专列”。据统计，乘坐“观象专列”前往东山动物园游览的儿童达到 3 万人以上。

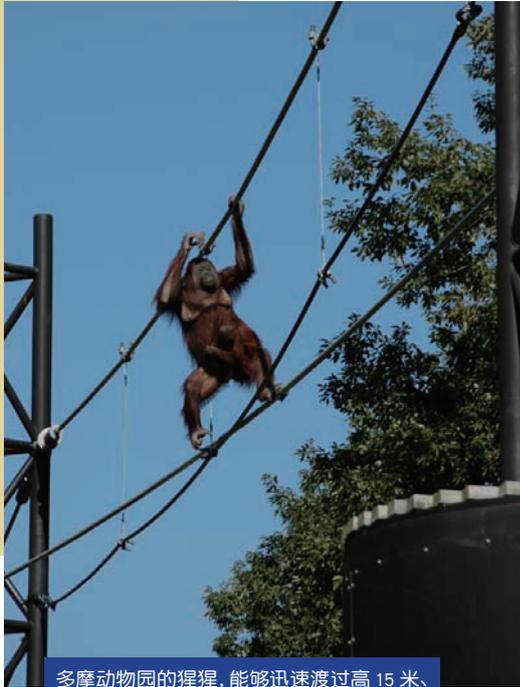
当时，东京的孩子们也热切期望能在上野动物园里看到大象。1949 年，了解到这个消息的印度首相尼赫鲁，向日本上野动物园赠送了以自己女儿的名字“印第拉”命名的大象。在战后的困苦时期，这头印度象给无数的日本儿童带来了希望。

在与中国邦交正常化的 1972 年，作为友好的象征，从中国送来了两只大熊猫“欢欢”和“兰兰”。从未见过熊猫的日本国民，通过新闻报导，立刻被那可爱的样子吸引住了。公开展示的第一天，有些人彻夜排队，等待动物园开门的队列长达 2 公里之多，掀起了空前的熊猫热潮。

印度人心目中的大象和中国人心目中的熊猫，都是非常珍贵的东西。将这种珍贵的生命之物赠送给日本决非一件轻而易举的事情。这种情意引起了日本国民的共鸣，使得大象与熊猫受到无数日本国民的珍爱。并且，很多日本国民通过与动物接触，增进了对印度与中国的亲近感情。

为了动物能幸福地生活

为了丰富动物们在动物园里的乏味生活，人们开始重视环境丰容学的研究，并尝试了各种方法。为什么动物园里的有些动物行为异常呢？其原因之一是动物们无事可做。野生动物为了觅食，不得不和严酷的自然环境作斗争。比如，北极熊每天的活动范围方圆几十公里，一天有一大半时间都忙于捕食。但是在动物园里，每天能定时吃到定量的食物，因此无事可做。于是，为了让动物们在觅食时尽量耗费时间、体力，越来越多的动物园开始出注意、想办法，比如，将香蕉、苹果夹在大冰块里，或者每次将食物藏在不同的地方等。



多摩动物园的猩猩，能够迅速渡过高15米、长150米的绳索。这是动物园考虑到猩猩善于在高枝间攀爬的特点专门架设的。

儿童动物园

1948年，上野动物园内增设“儿童动物园”。目的是让孩子们能与动物亲密接触，切身感受生命的存在。现在，全日本70%的动物园设有儿童动物园。此外，一些地方政府还在公园内开设能与动物亲密接触的专门场地，在这类儿童动物园中，饲养较多的是兔子、豚鼠和山羊等。



在儿童动物园里，孩子们可以直接抚摸动物，因此很受儿童欢迎。

感受生命的动物园

这几年，旭山动物园（北海道）格外引人注目。旭山动物园是1967年开放的日本最北端的动物园。在70年代，有将近70万游客入园游览，但进入90年代剧减为25万人，当时，旭山动物园被指责“丧失了社会功能”。小营园长重新思考动物园的作用，得出的结论是：“动物园，应该是能够感受到野生动物生命力量的地方”。

为了体现生命的力量，旭山动物园引进了“行动展示”的新型展示方法。即不是采用训练动物让它们表演节目的方法，而是激发动物本能的行为，这种与生俱来的特性正是最富魅力的地方。行动展示就是让各种动物将自己独特的行为充分地表现出来。例如在海豹馆，可以近距离观赏海豹在圆筒状水槽里尽情游泳的姿态。这是为了让游客了解海豹喜爱在狭小空间里垂直游泳的特点而专门设计的。



在北极熊馆里，透明的密封舱从地面突起。游客可以从这个密封舱里观看北极熊，感受惊人的魄力。



海豹从圆筒状水槽中往上窜游。

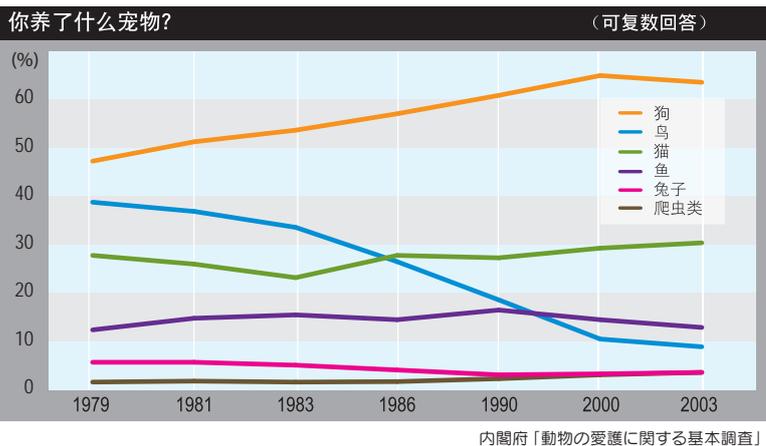
© 旭山動物園

伴侣动物



在日本，有近 40% 的家庭饲养宠物（内阁府《关于爱护动物的社会调查》）。与东京、大阪等大城市相比，地方上饲养宠物的家庭更多。饲养宠物的种类繁多多样，有狗、猫、鸟、兔子、仓鼠、鱼、爬虫类、昆虫等，尤其是狗和猫最受欢迎。

最近，在城市集体住宅区里的家庭或单身人士中，在室内养狗、猫的不断增多。10 年前，允许养狗、猫的集体住宅几乎为零，但现在，允许饲养宠物的集体住宅已经上升到 50% 以上。此外，能够寄养猫狗的宠物旅馆，或主人与宠物可以同时进出的旅馆和饭店也不断增加。为了让周围的人像接受自己的家人一样对待自己的狗，对宠物进行礼仪教育的意识越来越强，小狗礼仪教室也到处可见。



有人气的宠物

从野猫到社区猫

随着饲养猫狗的数量不断增加，也出现了被主人抛弃的猫和狗。有人出于怜悯给流浪猫喂食，但另一方面，由于流浪猫在庭院里撒尿拉屎引起纠纷，不洁的臭味污染了居住环境等问题也屡见不鲜。虽然日本各都道府县的动物保护中心均收养野狗、野猫，但如果超过一定时间无人领养的话，这些小动物们将被人道处理。每年被处理的宠物数量超过 40 万只。最近，不是轻易地处置野猫，而是在保护人们居住环境的同时，保护野猫生命的“社区猫”活动在许多社区展开。在这些活动中，社区居民互相配合，对野猫实施绝育手术，在规定的时间及地点喂食，清扫野猫的粪便。有些社区行政部门还对绝育手术费提供补助金。新宿区便是其中之一。

在新宿区保健所，为了解决野猫问题，召集给野猫喂食的、饱受野猫之苦的以及街道委员会的人一起商讨，弄清问题所在，建立起一个解决问题、商讨对策的共有平台。“野猫的问题，实际上多半都是人际关系问题，”新宿保健所的高木优治先生说，“不同立场的人互相沟通，这是解决野猫问题重要的第一步，不单单是喜欢猫的人，社区里所有的人都共同参与活动，只有这样，社区猫活动才能扎下根来。”像这样被社区居民接受的猫儿们，将不再是野猫，而成为被大家呵护的社区猫。

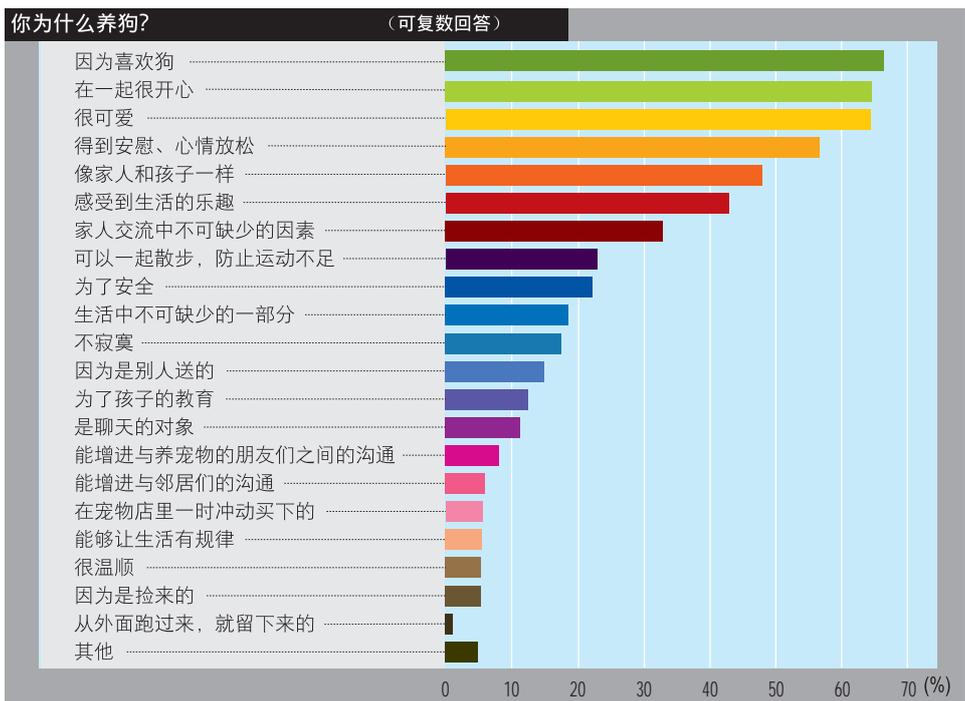


聚集在指定公园喂食场所的社区猫

© 新宿区保健所

养狗的理由

接触动物，可以给人的身心健康带来良好影响，这已成为众所周知的常识。最近在敬老院等护理设施，增设与动物接触的机会，引进动物疗法的越来越多。据某项调查显示，很多家庭饲养宠物的理由是“孩子死搅蛮缠地要求”，而一旦饲养宠物后，却发现全家人的交流变多了，情绪放松了。除此之外，饲养宠物还有很多功效，例如在人情淡薄的城市地区，通过宠物，邻居们的交流增多了。



小学里饲养的动物

日本的很多小学都饲养兔子、鸡等动物。以前，饲养动物是孩子们理科学习中的一部分，但现在，饲养动物的重点则放在对生命的理解上。一般情况下，由专门的饲养委员*来照顾小动物，而在有些学校，由学生们全体照顾小动物。此外，全班同学一起饲养仓鼠、金鱼等小动物的情况也比较普遍。



*升入高年级后，每个人都分担某个委员。除了饲养委员之外，还有环境美化委员、广播委员、校报委员、保健委员等等。

孩子们轮流值日，为学校里饲养的小动物打扫窝巢、喂食。

雑学博士：動物のことわざ・慣用表現

下線部の、動物を使った表現の意味としてそれぞれ適切なものを(A)

～(F)から選んでください。

- (1) 田中課長と山下課長は犬猿の仲なんですよ。
- (2) 加藤選手はうなぎ上りに調子を上げて勝ち進んできました。
- (3) 虎の子の貯金をはたいて車を買ったんです。
- (4) 狐につままれたような顔をして、どうしたの。
- (5) 独自に開発した新製品なんて言っているけど、しよせん猿まねにすぎないよ。
- (6) 努力しないで合格しようなんて虫がいい話だよ。

- (A) 如坠五里雾中。茫然不知所措。 (B) 水火不相容。
(C) 直线上升。 (D) 只考虑自己，自私自利。厚颜无耻。
(E) 依葫芦画瓢。 (F) 不离手的珍贵之物。珍贵的东西。

★正解はウェブに掲載しています (<http://www.tjf.or.jp/hidamari/>)。

執筆：有馬淳一（国際交流基金日本語試験センター設立準備室研究員）

人物采访

建在山坡上的淡路岛野猴保护中心成立于40年前，喂养着180只野猴。每到早上九点左右，生活在山里的猴子便到保护中心来觅食，傍晚5点左右又回到山里。每逢秋季，山中很多树木果实累累，猴子们便不来保护中心了。现任保护中心所长延原和利先生的孩子早纪，在上小学之前，每天一多半都在父母工作的这个保护中心度过的。即使现在，放学后或暑假的期间，她都在保护中心里度过。早纪和猴子的关系很好，甚至还能够互相打打闹闹，心灵相通。早纪跟猴子的这种亲密关系也频频成为电视节目的取材对象，温馨的故事感动了很多。本期将介绍早纪和她父母的访谈。

Q：你是从什么时候开始跟猴子一起玩的？玩些什么呢？

早纪：大概是从1岁左右开始的。打记事起就跟猴子一起玩了。一起玩泼水、比赛找树果子。找我妈妈藏起来的树果子，一般都是我赢。因为我偷看到妈妈藏在哪儿了……（笑）。就这么一起玩，很开心，最开心的是给猴宝宝喂东西吃。

Q：这儿的猴子几乎都有名字，你能区分谁跟谁吗？是谁给它们取的名字？

早纪：嗯，差不多都能认识。因为它们的脸长得不一样。小猴子出生后，我或是妈妈、爸爸给它们取名字。我取的名字有“彩带”、“蛋糕”什么的，“头喽喽”这个名字是妈妈取的。不管是自己取名的猴子，还是别的猴子，都很可爱。

母：早纪非常善于识别猴子。我们也没有教过她，她自然而然就会了。

Q：到现在为止最开心的事情是什么？

早纪：5岁时，抱了刚出生的猴宝宝的时候。猴妈妈就在猴宝宝的后面一点点，但是猴宝宝太可爱了，我情不自禁就抱了。

父：如果发生这种情况，母猴通常会发怒的。不光是母猴，其他的猴子也会发火。大概是早纪从小就跟猴子们一起玩，现在也还小，所以猴子们就“唉？算了算了”地默许了吧。对早纪的行为宽大为怀的例子其他还有很多呢。

母：她第一次抱猴宝宝的时候，看上去真的很开心。还有，在电视台来拍摄的时候，头喽喽第一次让早纪摸了自己，早纪也很开心。看那个时候的录像，早纪的脸上充满了心满意足的神情。通常野猴是不让人碰的。

Q：那么，到现在为止最伤心的事情是什么呢？

早纪：6岁时，跟奶奶一起散步，看到一只身高约50厘米的母猴死掉了。它可能是从高处摔下来的，要么就是被狗袭击了。我让妈妈把它埋了。当时难过极了！还有7岁的时候，和爸爸一起去找可以喂猴子的树果子，发现了一个头盖骨。只有一个头盖骨！太让人震惊了。我给它造了个墓。

父：当时，早纪没有流露出伤心的样子。大概是不想让人看出自己脆弱，这孩子有好强的一面。但是，后来看到早纪造墓的时候，我才意识到她心里受到了沉重的打击。因为平时很少有直接面对猴子死亡的机会。在喂养场地从来没有见过猴子死掉这样的事情。以前一直都是到喂养场来的某只猴子不见了，早纪也只是以为它现在还“不在”，但以后便会渐渐明白“不见了=死亡”这个事实。等到她明白这个事实的时候，该如何接受、如何学会正视现实，虽然这是必经之路，但我多少还是有点担心。

这个山里畸形的猴子有很多，180只猴子中有30只有着各种各样的残疾。在保护中心开放后不久，第一任园长——早纪的爷爷，发现了树上有一个猴妈妈，抱着一只没有四肢的猴宝宝，眼看着猴宝宝快要从疲惫的猴妈妈怀里从树上掉下来的时候，老所长立刻救下了那只猴宝宝，此后亲手抚养，并给猴宝宝取名叫克达。后来，为了怀念克达，还在保护中心建了克达的雕像。

Q：你知道克达的事吗？有很多没有脚的猴子，你怎么看？

早纪：我觉得收养克达的爷爷很伟大。但是当我知道这个事情的时候，我有点儿担心，克达不是被猴妈妈而是被人养大，它能不能跟别的猴子成为好朋友、到底要不要紧？

父：早纪从来没有另眼看待有残疾的猴子。这里的猴子会自然地配合有残疾的猴子，改变自己的活动范围和活动方式，比如放慢移动速度等……。群体中的等级当然还是有的，但他们会帮助弱者，不会抛弃或者放任不管。包括有残疾的猴子在内，它们是一个完整的群体，一个猴类社会。

Q：你每天都和猴子在一起，有没有受到启发的地方？

早纪：没有！因为这很正常啊。

Q：爸爸和妈妈是否希望早纪通过与猴子接触学到什么东西？

父：我倒并没有希望她学到什么特定的东西。早纪每天的生活都是其他孩子没法体验到的，是不是好事我也不知道。但我认为这至少不是坏事。因为她切身了解到，生存要互相帮助。虽然她自己不说，但看到她的举动，我经常能感到，她自己在思考很多事情。造墓这件事就是一个例子，还有，经常碰到猴宝宝出生，每当那个时候，早纪都会非常认真，周围有个什么动静，她都会说“请安静点！”

母：我也没有刻意要她学到什么东西。我觉得她会自然而然地学到东西的。我们故意安排的话，反而会遭到她的拒绝。（本文为“人物采访”的中文版）